

環境教育「まず、今できることから」

歴史に学ぶ

発行所：地域環境活性化協議会
 編集者：代表幹事 高橋賢一
 連絡先：市民活動支援センター
 尾張旭市渋川町三丁目5番地7
 (渋川福祉センター内)
 TEL 0561-51-2878



「作文を課するのは、自分で何かを書き綴る修練をさせればいいので、彼等が文柄を提出した時、すでに作文授業の目的は達している、ということはこのやり方では不都合となるA-1(人工知能)を使えば、

作家の内田百閒が語学教師だった時、学生たちに作文の宿題をよく出された。だが、学生たちもろろえきまんとして提出してこるが、先生は、それをまじめに読まなかった。したがって甲乙丙やA、B、Cなどの評価がつけられない。どうしたか、優秀者がつかぬように「花鳥風月」の花とか鳥と記して作文を返してさうだ。どうしれない先生のまじめに読まぬ理由がある。

東京都教育委員会
 育育委員会
 も似たる
 えうしい
 生感A-1を
 使った読書
 感想文や
 日記を児童
 童や生徒
 に提出させ
 せないう
 注意を求め
 める通知
 を学校に
 おしたそう
 だ。



A-1が普通する時代は、A-1に頼れば、考える力はやはり身に付かない。自分で走るべきランニングのコースを車でも走らせない。体力は向上しない。
 感想文のつらさ、ぼんやり知ることが、自分で読め、書け、ある。A-1感想文では、花も鳥もあがられ

環境に
 子供達に紙
 芝居で説明
 している場面

